平成２７年度大阪府立八尾支援学校　第２回学校協議会報告

平成２７年１２月１日

□日　時　　平成２７年　１２月１日㈫　午前１０時～１２時

□場　所　　大阪府立八尾支援学校　多目的室３

□テーマ　　・平成２７年度学校経営計画の進捗状況・平成２７年度学校教育自己診断の進捗状況
・居住地校交流の進捗状況　　・第２回 授業アンケート
・平成２８年度使用教科用図書　　・保護者から寄せられた意見

□学校協議会委員

乾　　伊津子　　（大阪市職業リハビリテーションセンター　所長）
岡崎　裕子　　（大阪大谷大学　教育学部　教授　学長補佐）
御前　敬　　（八尾市障害福祉課　課長）
西原　直美　　（本校 PTA 会長）
山田　紅美　　（東大阪子ども家庭センター　地域相談課　総括）
吉田　裕子　　（東大阪市療育センター　第一はばたき園　園長）

□学校協議会事務局

古川　綾子　（教頭・小／高）　渋川　雅宏　（教頭・中）
小林　俊雄　（事務長）　荒木　智恵子（首席）
井川　忠都　（首席）　横山　眞二　（首席）
山本　耕平　（首席）　山田美也子　（指導教諭）
松村　由美　（部主事・小）　長谷川次郎　（部主事・中）
谷　　浩美　（部主事・高）
辻井　武　（総務部）　田代　恵子　（総務部）

□協議会　内容

１　学校長挨拶

第１回学校協議会のおりにもお話ししたが、昨年度東校で生じた体罰事象については、生徒の皆さん・保護者の皆さんに本当に申し訳なく思っている。小中学部の児童生徒の皆さん・保護者の皆さんにも不信を招き、本当に申し訳なく思う。今年度襟を正して取り組んでいこうと思う。協議会委員の皆様に、それぞれのお立場で教育活動・学校経営の改善に向けていろいろご意見をいただきたい。

２　平成２７年度学校経営計画の進捗状況について（資料ｐ１３～１６）

・学校経営計画は、めざす学校像・中期的目標・取り組みと自己評価からなる。

・中期的目標は①支援学校における教育力の向上・組織としての専門性の向上②キャリア教育・進路指導の充実③センター的機能の充実・開かれた学校の推進④安全安心な学校作りの推進

★校長より

・①専門性の向上⑴アセスメント検査研修では 22 名が参加しWISCⅣ検査の読み取りの基礎を学んだ。⑵授業参観期間を設けて小学部中心に回収率が上がった。アンケート結果を反映させて校長の授業観察や指導助言を行った。⑶視覚支援についてのアンケートを実施し、全学部でICT の教材をデータベース化した。夏期研修を実施し、体育授業のユニバーサルデザイン化を行った。⑷授業観察改善シートを設け、５つの視点（㋐課題設定㋑教材教具の工夫㋒主担の授業進行㋓サブの連携㋔児童生徒の反応）で指導助言を行った。

・②キャリア教育⑴小→中→高をつなぐ観点で第２回検討会を 11 月 30 日に実施した。
⑵進路校内研修（９月、大阪大谷大の小田先生のお話をお聞きした。）⑶校長室だより

・③センター的機能⑴中河内ブロックの推進校として地域（たまがわ、八尾、東大阪）の中の事務局を担当し、巡回指導を行った。高等学校からのニーズがあり行かせていただいた。
⑵夏の公開研修を実施し延べ 700 名の参加者だった。⑶次世代のコーディネーターを育てる観点で巡回への同行研修を実施⑷診断支援チーム（研究部長・支援部長など）で話をしている。

・④安全安心な学校作り⑴今年度は実践していく必要あり（校長室だより参照）⑵参加体験型の人権研修の実施⑶防災マニュアル作り⑷学校をきれいに→教職員で窓枠のペンキ塗り・温室の改修・掃除

★准校長より

・①専門性の向上⑴授業参観を６月に３日間行ったが、参加が少なかった。10 月は参観とPTA懇親会を同時開催という工夫をしてたくさん出席していただけた。のべ、72 名アンケート７９％（２年は８０％）とアップした。アンケート結果を基にして授業改善に取り組む。⑵中学部との連携と継続性：12 月より高等部３年の教員が中学部３年の授業見学予定、授業での様子や ADL 面での実態把握を進める。（東校の時は３月に実施していたものを前倒し実施）

・②キャリア教育⑴プログラム作成へ最終段階である。（別紙：高等部キャリア教育発達段階表）㋐人間関係能力㋑情報活用能力㋒将来設計能力㋓意思決定能力、教科でこの表をもとに年間授業計画に落とし込む作業をしている。12 月をめどに完成予定。⑵フロンティアコースの見直し：12 年前に開設したが、「たまがわ高等支援」ができて、取り組みにやや遅れが見える。たとえば実習（たまがわ 10 時間／1 週間・八尾４時間／1 週間）校外実習などの継続的な取り組みに課題がある。カリキュラムの見直しも含めて担当者が進めている。第３回学校協議会では来年度の方向をお話しできる。⑶ひばり作業所見学を夏に実施。作業所見学したうえで所長様にご講演をしていただいた。⑷企業・作業所への見学⑸大阪の職業リハビリテーションセンターを見学（1･2 年生 19 名参加）

・③センター的機能：元第５学区の高校との連携を強める。布施工科・勝山高校・桃谷高校等へ支援を行ってきた。

・④安全・安心⑴１２／４～人権週間に高等部生徒会で人権ポスター作りを取り組む。⑵夏にプレハブ校舎の老朽化箇所の修繕を実施。

★提言

・大阪職業リハビリテーションセンター見学に高等部の生徒たちが来られたが、生徒に「できそう？」と聞くと「できない。」という答えが返ってきた。「難しいかな？」と思っても「やってみようかな。」と思える学校教育を創っていってほしい。社会の受け入れがよくなってきている。職業リハビリテーションセンターでは企業より週に何社からも求人が入る状況であるので、社会に出ることに挑戦してほしい。技能・知識ではなく、気持ちを創っていただけることを待っている。学校教育で本人の気持ちを乗せていくことが問われている。キャリア教育プログラムの見直しを頑張っていただき、小・中・高とつながっていくキャリア教育をやっていただきたい。生徒の様子を見るとすくすく育っているのではと感じる。また、見学時の交通手段がバスだったのはいかがなものか？ぜひ一般の交通機関を使って来てほしい。社会経験が社会に出る力を作る。

・学部間交流が大切かと感じた。高等部３年生の教員が、昨年より前倒しの時期に中学部の授業見学に行くことはもっと増えるといいなと思う。

・小学部の話を聞いていろいろなことをやっているなと感じる。どのように知らせて行くのかが気になる。研修をしてそれが指導にどう生きているのかをアピールしてほしい。

・これだけ取り組んでどう変わっているのか、それを保護者がどう感じているのかキャッチしていくことが大切である。

★校長より

・研修はいろいろなことに取り組んでいる。学部縦断的なことも始めている。校長・准校長の話は、職員会議・朝の職朝・首席との会議などでできている。保護者へは校長室だより、PTA 実行委員会で伝えるなどしているが、十分浸透しているとは言えない。分析の中では教職員が肯定的であっても保護者ではそれほどでも…というものもある。教職員の中でエキスパートの育成も大事だが、まだまだ底上げしていかないといけない。

３　平成２７年度学校教育自己診断の進捗状況について（資料ｐ６～１２）

・昨年度は東校・本校が独自のものを実施していたが、本年度は一本化する作業を行った。

・東校・本校の内容で似通ったものはそのままにし、独自のものについてはその文言の工夫をした。

・ｐ７「生徒用診断表」は、高等部の生徒全員が対象で、本人が答えにくい生徒は保護者の協力を得て記入していただいた。「４．…友だちの大切さ・社会のルールについて学ぶことができたか？」を追加した。

・ｐ８「保護者向け診断」では、「２１．視覚的支援や構造化・２６．防災への取り組み・２８．実習について（高等部のみ）」を追加した。

・ｐ１０～１２「教職員向け診断」では、「１１．実習・２０視覚支援・２７．人権研修・３２．学校の課題・３４．地域連携・５９．防災」を追加した。

・進捗状況としては、回収・集計も終わったのでこれから分析に取り組む。

・公表については、今年度より学校経営に関わるところもすべて公表する。
・結果をまって次回検討したい。

４　居住地校交流の進捗状況について（資料ｐ１７）
・小学部１４名・中学部６名　計２０名希望（内１名転居により中止で実質１９名実施）
・今年度の活動は別紙参照。
・小学部は支援学級との授業交流や支援学級と学年の交流会への参加、中学部は個別対応が多い。小学校時代の友だちに日常場面で声をかけられやすくなっている。
・ある学校は、小学校と中学校が同じ校区なので、友だちが同じだということもあり、通常学級の授業にも参加することができた本人も友だちに会えてうれしそうだった。

５　第２回 授業アンケートについて（資料ｐ１８～２１）
〇小学部
・授業参観への出席率が８５％と高いのは保護者の関心の強さであり、ありがたいことだ。
・回収率も全体で９３．２％と高く、１００％の学年もあった。
・「そう思う」「だいたいそう思う」を合わせると、１．興味関心で９５％、２．授業内容で９６％の肯定的な評価、３．教員の指導支援、４．教材教具の工夫において１００％の肯定的評価をいただけたことは、保護者のご協力、保護者と教員との日頃からの相談と、工夫を重ねた教員努力の賜物だと考える。
・授業内容に関する否定的な意見はなかった。
〇中学部
・９８％～９９％の肯定的な評価を頂いた。甘んじることなく精進して進めたい。
・中学部３年生は、修学旅行説明会と合わせて実施したので８５％の出席率で回収率は１００％となった。
・中学部１年２年はクラス活動だったので、課題が設定しやすい教科だったか？
〇高等部
・高等部１年は、１学期の回収率０％から７７％と大きく増加した。また、出席者も３名から２２名と大きく増えた。PTA 親睦会を合わせて開催したことで参加者数も増えたか。
・高等部２年は、逆に、１学期は宿泊学習の説明会と合わせて実施したため４０名の参加であったのが、２学期は２８名の参加にとどまった。
・高等部３年は、２２名参加と若干増加した。
・これらのことから、説明会や PTA 親睦会など参加しやすい行事との抱き合せが参観出席者の増加に繋がりそうなので設定の工夫が必要か。
・「そう思う」「だいたいそう思う」を合わせると、１・２・３・５の項目で９０％を超えているが、４．教材教具の工夫は８８％と少し低い、もう少し視覚的支援や教材教具の工夫が必要か。

★校長より
・中学部の「あまり思わない。」の４％をしっかり受け止めないといけない。

・中学部生徒数が、２２０名から１８０名と減少したがクラス集団・学習集団も大きく、生徒にも保護者にも負担をかけている。教育課程では、グループⅠ・Ⅱの時間配分を明確にしていこう。中学部も国・数・社／理という表記に変えていく方向で進んでいる。たくさんのグループがあるが、適正な教育内容へ進めていこうと考えている。

★質疑応答

Ｑ　授業アンケートに自由記述欄はありますか？

Ａ　自由記述欄は担当者で回覧して授業に活かしていくことになっている。

６　平成２８年度使用教科用図書について（資料ｐ２２～２６）

・小学部では絶版や供給不能を除いて、図工・保健体育・地図・家庭は学年が上がっても使用できるものを選ぶように指導が入っている。

・中学部の書写は、教育課程に位置づけられていないので採択できない。１年生社会「あいうえお」、２年生「レインボー」は検討中。

・高等部：細かくグループ分けに対応している。

７　保護者から寄せられた意見について（資料ｐ２７）

・①のご意見は、ありがたい。甘んじることなく、気を引き締めて取り組んでいきたい。

・②のご意見は、（１）自閉症スペクトラムへの高い専門については、年間６０回以上、全体研修・初任者研修・新転任者研修・希望者研修・外部講師の研修等を行っている。教材交流・学部を超えての研修も行っており、他の教員の実践を積極的に取り入れるように教材集をＨＰにアップし、保護者や他校の先生も見ることができる。視覚的支援の教材を首席がまとめ、資料を作成した。（２）主治医訪問は、現在も行っている。学校からも主治医訪問をお願いしているときもある。

※　「校内研修について」（別紙）　よい先生の見本を紹介。

※　「視覚的支援ハンドブックについて」各教師に教室で行っているものをアンケートを取って集約したもの。（別紙）

・専門性を上げていくのに専門家の話を聞くのも大事だが、授業や接し方での工夫で活かしていけることが多い。小中高でどのような視覚的支援を行っているかが見える。アウトプットで示せたが、これを見て工夫をして、子どもたちが見通しを持って主体的なものにつながればいい。今後の課題だが高等部の実践が十分反映されていない。

★質疑応答

Q. 視覚的支援ハンドブックを学校内で活用するのか？学校外へは広げないのか？

A.コラムも入れ、整理しながら行っている。現在は学校内で回覧し活用しようとしている。地域支援整備事業の中河内ブロック推進校であることや、センター的役割を担うことを考えると、文言を統一し、もう少しクリアになってから外部発信に耐えうるものにしたい。教材集という形で外部には本校のウェブページで公開している。

★提言

・作る過程で参考・参照などの出典を記入すること大切だ。プロセスにどれだけの人が関わって

いるかが大切だ。タブレット端末で検索したらみんな出てくる。いろいろな所に資料があるので活用されていくのは大切だ。学校として資料を持つことも大切だ。

・この教材は、本屋でもネットでも出てくる。この教材を TEＡCCH・構造化など、子どもにとってあっているのかを考えた上で、指導者が自分で使っていくことが大切だ。発信の方法を間違えると教材が主体か子どもが主体かという間違いにつながる。この学校この教室この友だちとやり方の工夫だけでなく、教師のあいだで使ってから発信でもいいのではないか。

・建物の構造化ができていない。職員の負担になってきて誰のための視覚支援か、家でも役立つことが大切か。子どもがこのようにできた。今、３歳でも母親は「させたい。」させるために使う。カード・視覚支援にすると、子どもが「したい。」と思わないのにやってしまう。「楽しいからやる。」という子ども本来の姿ではなく、「まずさせる。」になりがち、そのようなことを考えながら、教師の実践の中で小・中・高を通して本人たちが視覚支援の中でどう育っていくかというのが見えてくる。

・冊子をきっかけに先輩の体験談を聞くことにつなげてほしい。これがポンと置いてあるだけでなく、ぜひとも活用させてほしい。

★校長より

・冊子は、今の実践をまとめるきっかけと考える。支援学校が初めての教員に、間口を広く持ち、朝の会・教室をどうするか？よりどころは？など考えるきっかけとしてほしい。本屋でたくさんの本があり、どれを見ていいのか迷う。より明日の実践に役立つもの TEＡCCH の構造化・受容性を考えた時、最終は脱構造化だと思う。コミュニケーション以前のベースでどうしたらいいか？という姿を見受けられる。これをもとに、ホームページへの発信をしていけばいいと考える。最低限そのようなことをしていかなければ、学校力はいつまでたっても上がらない。

８　准校長挨拶

・乾委員様よりバスでなく公共交通機関の利用をという話があった。昨日ビッグアイで日産労連主催の劇団四季の演劇鑑賞があった。高等部のフロンティアコースの１・２・３年生が２０名参加し、自分たちで近鉄バス・近鉄電車・南海電車・泉北高速鉄道の乗り継ぎを調べて行った。食べるものも考えて注文し、帰りは、ターミナル駅まで教師と帰り、そのあと一人で移動し帰宅したことを電話で報告する、という学習を行った。これからも公共交通機関の利用を実践していきたい。

・研修の実施・授業の改善についてなど、ホームページで公開しているが、校長室だより等でお知らせしていくことも大切だと考える。

・参観は出席者を増やすための工夫をこれからもしていきたい。

・視覚的支援の教材については、いろいろな取り組みをまとめていき、公開できたらと考えている。